

Title	イギリス史に現はれたるイギリス人の國家的觀念とその特性とに就て(下)
Sub Title	
Author	朝日, 融溪(Asahi, Yukei)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.4 (1931. 12) ,p.81(635)- 94(648)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19311200-0081

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

イギリス史に現はれたるイギリス人の國家的觀念とその特性とに就て(下)

八

實にイギリス國民性の特徴、それは常に意見の自由なる表明に對する要求に與へられた裁可によつて生ずる國民の思想發表の顯著さほど力強く高調された特徴は他に認むることが出来ない。テニスン Tennyson は常にイギリス人の間に流布された自由の主なる概念を捕へて次の如く謳つてゐる。

“A land where girt by friends or foes, A man may speak the thing he will.”

と、イギリス人は常に彼等が欲するものになら

とし、又、なさんとすることよりも寧ろ彼等が欲するものを言はんとすることにより以上の心を勞してゐたやうに思はれる。イギリスの中古の歴史に表はれた純粹なる個人の意見と批判との率直な言と表白とは他の諸國のそれらに比べて確かに多く存在してゐる。ワルター・メープス Walter Mapes の時代から政治上の詩歌や、諷詩的文學に於けるその時代思潮に就いての意見を與へた評論家の澤山があつた。

イギリス文學の劈頭には一般に於けるものごと

に就いての意見を言はんとする單純なるイギリス人の希望に燃えたラングランド Langland が立つてゐる。リンカルのヒュー Hugh of Lincoln は

リチード一世の上衣を捕えて、彼が怒つて彼の言に耳を傾けることを拒んだ時、可なりに強き震ひを與へた。グロセテステ Grosseteste はヘンリー三世を追ひまくつて、終に王の前に於いて言はんとするすべての小言を申し述べた。イギリス人は常に彼の心の中にあるところのものを吐放せんと乞ひ願つたのであつた。

他の諸國家とイギリスを區別せんとする重なる分岐點の一は前述せる意見發表に對する推量の態度である。然るに十四世紀以後に至つてイギリス國自身も異端の發見に惱んだのであつて、その動機は社會的擾亂の突發を防止せんがためであつた。意見に對する嚴格なる訊問の觀念と彼等に對する處罰の苦痛とは常にイギリス人に對して眞に嫌惡なものであつた。女王メリー・チュードル Mary Tudor の下に於ける遭難者はヘンリー八世と女王エリザベス治下に於ける遭難者の數を殆んど同數であつたことは注意すべきことであるが、イギリス人は彼等の處罰を見て恐怖の念を抱いたに過ぎなかつた。何故ならば、彼等は、單に異端的な意

見のために苦しんだのであつて、それは社會的秩序の維持と政治的安定を保證せんがためではなかつたからである。

かゝる朦朧たる状態の下にも、イギリス人は常に國家的生活の團結は實際的合意の上に成り立つことを認め、而して堪へ得る秩序に於いて共同生活を遂行するために必要なる合意の最少限を守るべき制限を越えて無制限に發表された意見への壓迫から畏縮したのであるやうに私には考へられるのである。

そこには共通の根柢があるに相違ない。而してその根柢は保證されてゐなくてはならない。然しながら、その目的のために充分に強固であると言ふことは必ずしも大きな根柢を必要とはしない。かくして、斯くの如き意見それ自身として處置せられなければならなかつたのであらう。

こうした國民生活の道程、ことにイギリス國民生活の發展の道程を深く辿つてゆく時にイギリス國民生活の眞なる團結の根柢に對する相互の理解力の根本には一の信念がその基礎となつてをるこ

どを見逃してはならないのである。すべての人間は正義に關する相互の最後の感情に依頼して生きてゆくのであるが故に、相互の最後のその感情に疑ひを生ずる場合人間の生活は全く破壊さるゝのである。

この點に多くの注意を拂ふイギリス人は何事かに就いて、又は、すべてのことに就いて常に論せんとするのである。然しながら、吾人は、他の國民はイギリスの如き同じ根柢に對して必らずしも達してゐないと言ふこと、同じ方法に於いて意見の發表に留意しないと云ふこと、を記憶する必要があると思ふ。

すべてのイギリス人は何事かをなさんとしてある困難を感じる場合に彼の意見を發表せんことを好むことは眞實である。彼の意見が如何にしてなり立つたかは第二義的重要の事件である。イギリス人はその意見が價值ありと信ずるとき彼の同僚に發表する。同僚は果して眞價を有するか否かを詮議するのである。それが實際的形式を裝ふに至るまでには少なくとも一年位の日數を要するので

あらう。然る後それが同意者により、又は秘書官により、又は月刊雜誌によつて社會に反響を與へねばならぬ。かくして最初話したその時はそのことのために責任を感じてゐた彼が最早やその責任を忘れるほど時の隔つた時ある効果を生じてくるのである。是れはイギリスの政治的教育の形式である。がイギリスの商業が、雜誌のために又それに伴ふ教育のために支拂ふ廣告と言ふものが、必要でなくなつてくると今述べた方法も不可能となつてくるのであらう。

九

産業がさほど手廣くない他國民は、たとひ彼等がイギリスの政治的教育の形式に對して澤山の財料を有しても、直ちにその形式を適用することは出来ない。この理由に基いてイギリス人によつて發表さるゝ意見を粗雑に批判することは出来ないそれは恐らくイギリス人がイギリス人お互に與へるところの注意とイギリス人が海外に發表する意

見とを區別する鋭い一線を引くことによつて吾人は觀察の度の高低を調停しなくてはならないと思ふ。

イギリス人は自由に彼の意見を發表する。その意見に誰れか重大なる責任を附加することがあつても、更にそれを意としない。こゝにもイギリス人の他國民と異なる性を認めねばならぬ。かゝるイギリス人の態度は、意見に附帶する責任に就いての異つた見解を有する他國民や、國家の事件に就いてその善後策を講ずべき公會を催すことに慣らされてゐない他の民族や、國家的政策の權威ある發表に對する各人の意見に耳を傾ける他國民に對して適用することは出来ない。従つて、イギリス人自身の態度の如何も論せず、又イギリス外の國民の態度も批判することなくして、このイギリスの方法を一般的に説明せんとすることは至難なことであると思ふ。しかも、イギリス人によつてなされゆく有様は何の不自然もそこには含まれてゐない事柄であつて恰かもイギリス人によつて放たれたる火と煙とをよく調整された篝火より

來たるやうなものであるかもしれないが他から之を見れば、高慢とも、横暴とも見ゆるのであらう。それは篝火を他から大火と誤認するのも知れないのである。

外國人に對するイギリス人固有の態度は、確かに長き因襲によつて形作られたものであると思ふ。イギリスは強き國家的觀念を表はした歐洲に於ける最初の國であると私は記したが、それを換言すれば、イギリス國民は他の民族と分離したと言ふ即ち孤立したと言ふ感情の下にイギリス國を經營したと言ふ意味である。第十三世紀のイギリスの歴史は外國の影響からイギリスを清めんがために確固たる決心を以て斷乎たる行動を取り、而して純粹なる國家的政治を確立してゐる。その當時のイギリスの歴史家マシュー・パリ Mathew Paris によつて記された事實はこの時のイギリス人の感情を遺憾なく表はしてゐるものであつて、イタリアの僧侶と諸國との關係とに對するイギリスの態度を明示してをるのである。

イギリス人は特に『ローマ人によつて混亂さる

「より寧ろ死を願ふイギリス人の團結」と命名して僧正達に對して一の警告狀を發したのであつた、それはローマ教會より派遣されたる人達がイギリスより徵發したる教會税を貯へておく倉庫を焼き拂ふがそれに就いて干涉がましい態度に出でざるやうにとの通告であつた。

オスニー寺院 Osney Abbey に於て學生の一團は、學生の自威運動と言語とに常識を逸した太守オナー Otho の料理人を射殺した。それはバロンズ、ウオア Baron's War が示した『イギリス人のためのイギリスと言ふ感情の一現象であつた。この感情の生んだ文學はイギリスの氣概が示された。かくしてイギリスに住せる外國人のすべてが、その居城を見捨てるやうに命せられた時、シモン・デ・モントフォートもその一人として營まれてゐた。がイギリスは彼を必要とした。而して、非難をうけてゐた人達が除かれた後ちシモンはもとの位置に呼び返された。

イギリス國內に發した最初の國家獨立運動を外
部より批判したのは一四九七年に於けるヴェニス

の大使であつた。大使は言ふ、『イギリス人は非常なる自己愛護家であり、而して彼等自身に屬するすべてのものを愛し大切にす。彼等自身の如き人間はこの世に存しないと考へ、又イギリスの如き國家は他に存しないと考へてゐる。而して彼等が立派な外國人を見る何時でも彼等は「彼はイギリス人の様である」と言ふ。而して「彼がイギリス人でないことは氣の毒である」と言ふ。彼等は「斯様なことが他の國に於いてなされるか」とさくのが常である。』と、よくイギリス人の感情を言ひ表はし得た言葉だと思ふ。

一〇

ヘンリー八世の治下の初期に當つて、サー・ロバート・ウイングフィールド Sir Robert Wingfield は立派なるイギリス人の態度を宣明してゐる。即ち『イギリスの國民は常に勇氣に於いて又健實なる信念に於いてフランス人を凌駕しをるが故にその古さと威儀とに於いても、又その地の大きさに於い

ても、又その知識と才能とに於いても劣つてをると判断さるべき筈がない』と、『勇氣と健實なる信念』とはイギリスが常に彼等自身の特別なる性質のかの如く宣言し來つた實際的本來の性として認むべきものであるかもしれぬ。

而してイギリス人はすべての他の立派なる性質はその本來の性から自然的に發成しきたるものであると論せんとする。イギリス人が他國民を誤解せんとする主要點が、こゝにあれば、他國民がイギリス人を誤解せんとする點もこゝにある。

イギリス人の『勇氣』を認めることに於いて世人は否定せざるべきも顯著にして健全なる信念に對するイギリス人の宣言は果して世人が、彼等の『勇氣』と等しく認むるであらうか。『健全なる信念』と言ふ問題は或る程度までの意見の問題である。而して、それに對しての名聲は神經の過敏なる注意によつてのみ得らるべきものでないのであらうか。それは二三の英雄的行動の結果によつて、勝ち得らるべき筈のものではない。イギリス人がなし來つたすべての公平無私な行動をイギリス人は

正當に評價してをるものを一般の世人はイギリスはイギリスの利益を維持せんがために世界的事件に對して利己的行動を取つたに過ぎないと認めてゐるかもしれぬ。否な多くの偽善を辯護しながらイギリスの人道的體面を保たんとするものであると見做し、而して尙ほその背後に秘めたる或る深き動機のあるものとして一切を疑はんとする人がないと誰が保證することが出來やうか。

然し、かゝる疑ひを抱くことは誤りであるとするも、かゝる疑を押しはさむことの自然的經路である人間性の弱點をも認めねばならない。また、眞にイギリス人が、如何に眞純であり、而して卒直であると言ふことを世人が知り、而して信ずることが出來ないとするならば、或るいづこかの點に於いてかく信せしめないイギリス人自身の過りを認めなければならぬのでなからうか。

こゝに私はイギリスが早く諸外國の影響を離れて獨立せんとする強固なる感情を現はした事實を考へてみねばならぬ。これは孤立を意味するのではなくて、獨立を意味すると言ふことはノールマ

ンの征服 Norman Conquest の事實によつて明らかである。それはイギリスの國民性に適合するものを同化し、而してその國民性に適合せざるものを排除したのであつた。

イギリスに於いて發達した建築術の開展によつてその事實を跡付けることも興味あることであると思ふ。

一の衝動はこのノールマン人によつてイギリス人に與へられたのであるが、間もなくイギリス人はノールマンの形式にイギリス特有の意義を與へた。この重要な點が、イギリスの因襲の執着力を説明するに力あるものである。偉大なるノールマン人によつて建てられた教會堂は圓半形状の建物を以て、限られてをる長方形の建築物である。時日が経るに従つて、少しづつ是に變形を加え、イギリスの建築學者はイギリス人が彼等の簡單なる教會堂に於いて慣らされてゐた長方形の内陣を附加することによりイギリス特有の形式を復活した。實に教會の建築物の發展の全き経路はケルト建築物 Celtic Building の太初形式への漸進的

復歸であつた。かくしてそれは文藝復興の運動と同じ方向を示してゐた。

イギリスはそれが外國より輸入である間長くそれによつて感化せられずに舊態を維持してゐた。而してそれが嚴正なる批判の實際的形式を裝ふた時初めてイギリスの學者より、それを受けたのであつた。新しき學問に對して與へられた自然的形式はイギリスをして、大陸に於ける宗教改革の影響に對抗せしめ、而して、イギリス固有の狀境に適應したイギリス自身の教會上の變化を創造したのであつた。歐洲に於ける宗教改革のために、發せる擾亂の渦の外にイギリスがあつたことは、新しい學問の文學的及び美術的衝動が完全に行はれて、エリザベス女王の治世の下に、變化してゆく世界に於いて國家的偉大の新しき自覺を力強く呼びさますことによつて調節し、而して鼓舞するところの立派なる表現を見たのであつた。今、この問題に就いて追求するの要はないのである。

この時以來、イギリスは大陸の思想界にまた、

文學界に、而して美術界に或る意味を加へると共に、その價値を認められ、而して、イギリスが必要とするものを他國より輸入する態度のちつさを熟慮と周到とは吾人の特に注意を要する點であつて、イギリスの偉大となすの一要素であると思ふ。

かゝる重要な意義を有する一時代を瀟過し來つたイギリスは、今や、世界に於ける位置を轉換したのであつて、他の國民はこのイギリスより多くの衝動をうけ、而かもその衝動によつて動かされざるを得なかつたことも見逃してはならない事實であると思ふ。

一一

吾人が少しく注意深くイギリス人の歴史を讀むならば、その何れの事件に於いても、イギリス人はイギリス人の必要に應じ、イギリス人自身の方法に従つてイギリス人自身の事件を處置せんとする強固なる決心を以て當に活躍してをることを見出すであらうと私は前節に於いて記した。實にイ

ギリス人の力はこの定つた目的に對して常に動いてゐるのである。

イギリス人は彼等がなした仕事をよく他の人々に見せようとか、又は立派な説明を與へようなどゝは少しも考へてゐないやうである。彼等は流行思想とか、流行運動とか言ふやうな流行ごとに少しの注意も拂つてゐないが、彼等が自から價値ありと信ずるものを研究し、又考慮をめぐらすのである。それと同時に彼等が價値ありと信ずるものはそれを直ちに採用するのである。

ヴェニスの大使に對しイギリスの偉大なる特長として眼に映じたる「彼がイギリス人でないと言ふことは氣の毒なことである。」と言ふイギリス人の心持ちは、イギリス人自身の立場をイギリス國家との價値を示すものであつて、深くこの點を考慮する時、その特性も理解さるゝ點があらうと思ふ。

ヴェニスの大使はイギリスの國民的傲慢の表現として「It is a pity is not an Englishman.」の言葉を見做してゐるやうである。眞にイギリス人がかゝ

る態度を表はすいつでも、それは、イギリス人の卓越したる廣量なる精神を評價すべき適當なる表現であると思ふ。そこにイギリス人の自國尊重の精神と偉大なる獨立心は閃いてゐると思ふ。

然し、このイギリス人に對する評價を事實に於いて認め得る心は、その評價を己れに認めんとする準備の實際的形式の裝定ではないのであらうか。人間の美點を容易に認識する心には常に或る未練が伴ふてゐるのでなからうか。それは、その美點は必ずしも彼等の恩惠とのみ認むべきでないと言ふやうな心持ちが動くのではなからうか。

“*Talis cum sis noster esto.*”とは實に御世辭の一般的に認められた形式である。恐らくヴェニスに考へたのではあるまいと思ふ。確かに大使はかくの如きイギリス人が、彼の共和國の一性質たるを望まなかつたことは明かなことであらう。聲に表はして大使は言つてはゐないけれども、『か様な人がヴェニスにゐないことを喜ぶ、若し斯様な人がゐたとすれば、それはヴェニスの仕事を邪魔す

るのであらう』と考へてゐたのではなからうか。

かく推察を恣ま、にするとき、この點に關するイギリス人の特性は尙ほ議論の餘地を存すべきも、その事實に現はれたる特性として、之れを認むるとき何の疑ひもないものであると思ふ。かくしてヴェニスの大使は明かに賞讃して、而かも彼の賞讃したことが、その國に屬せざるを見て悔いざるを得なかつたのでなかつたか。そこには彼の言葉の中に何の貪慾心もなく、又、強壓的併合の思想もなかつた、が、大使はイギリスには斯様な人物がこの時代に於いては欠くべからざるものであると感ぜざるを得なかつたのであらう。要するに彼の評言は彼の心に映じたその當時のイギリスの反面を物語るものである。

これはイギリス人を觀察すべき一の比喩のやう思はれる。それほど單純にして眞に赤裸々である。それは何のこだはりもなく傲慢として、或は貪慾として、または、傲慢にして貪慾とし説明されたのである。

イギリス人の國はイギリス人に取つては、實に

大切なものであつた。その國が有するすべてのものはその手製になるものであり、理解し得べきものであり、而して、イギリス人自身に對し、而してその要求に對する眞の方法に於いて相一致するものであつた。スペインとフランスとの一大結合の王國を以て、このイギリスが對立するをイギリス人が眺めた時、『哀れなるイギリス國』と呼ばざるを得なかつたことであらう。

第十六世紀の歐洲大陸の態度はこの長い間悲しみ來つたイギリスの獨立を烈しく脅したのであつた。この脅嚇と危険とはイギリス人が、これより以前に於いて實現することを要求しなかつたもの即ち、彼等の國が彼等のために必要とするすべてのもの、實現を促したのであつた。この脅威の急迫に對してイギリス人はイギリスに生れたる特權と義務と、彼等の國が彼等に附與した個人の權利の價値を充分に知ることを得たのであつた。

かくして、彼等自身の資力の素力に立ち返つた彼等は彼等が所有するもの、みをも以て、最善に利用せんと心を引さしめ、而して、他をも安全にな

さんとするためにあらゆる機會を利用したのであつた。

一一

最初に、イギリス人は彼等の地理的位置の天恵を充分に認識し、而して、是を利用して、最善を以つて事に盡さんと努力した、貿易に、工業に、海運事業に、探險等にすべてイギリス人が、それ以來親しく従事せるそれらの形式をこの時に定めたのであつた。

近世のイギリス人はこれらの事業を完成して世界に不動の位置を占めてをるのであるが、それは祖先の歩んだ道と異つたのではなくて、同一の道を強固なる自覺を以て進んだのであつた。かゝる強固なる自覺の喚起は十六世紀に於ける大問題に當面して自己の立場を意識したに歸因してをるのである。新世界を所有せんとする欲求に燃えながら烈強との争ひに従はねばならなかつたイギリス人はその最後の成功を勝ち得たるすべての資格に於いて他の國民に優れるを自から見出して意外に

感じたのであつた。

その自己の試練場に於いて、自己の眞價を知り得たるイギリス人の國家的運命は前途の光輝を示したものであつて、消極的手段はすべて、積極的手段と變じ、世界的事件のすべてはこのイギリスを中心となすに至つたのである。

次いで私はイギリス人の性格に編み込まれた國家觀念の永存性に就いて一言してみたいと思ふ。私の頭腦に浮んでくるエリザベス女王時代のイギリス人の活動を斷片的に記することによつて最もよく説明することが出来ると思ふ。而かも、さうすることはイギリスの發展がイギリス政治の立場に於ける或る政策からその結果を現はしたのではなくて、十六世紀に於ける事件が機會を提供すると同時にイギリス國民を活動せしめた貿易的冒險を敢てした國家的精神の結果であるごとく説明するに役立つであらう。

一五五四年にアムドバーのロバート・トムソン Robert Tomson of Andover はその名を著はさんがためにブリストル Bristol からカデイス Cadis

へと船を出した。彼はセビユール Seville に着した。

その地に於いてジョン・フィールド John Field なるイギリス人に會ふた。このフィールドは妻と子供と共にその地に二十年間住んでゐた。トムソンは彼にスペイン語を學び、而して彼の周圍にあるものを眺めた。その周圍にある品物が西印度より來たものであることを知つた時『彼は斯様な豊富な日用品の多量が生産さるゝ豊饒なる國へ渡らんと其の方法を求むることに決心した。』フィールドも彼の熱心に動かれて家族を連れてメキシコ Mexico へと出發した。その途中に於いて彼等の乗つた船は難破したが、彼等は他の船によつて救はれた。彼等はすべての品物を失ひ、而して『素裸體か、而かも病に悩まされてサン・ジュアン・デ・ウルロア San Juan de Ulloa に上陸した。』

その友は彼等に必要品を與へ、而してメキシコへの彼の旅を續かしむるやうに方法を講じてくれた。その途上に於いてフィールドとその家族の多くは熱病に罹つて死んだ。トムソンも六ヶ月間病んだがその地に二十年住んでゐたスコット人に會した。

このスコット人の推薦によつて一年半苦しまずに生活した。彼は或る日の食事中神學上の議論に華を咲かした。その議論によつて、彼がイギリス人であることが曝露した。その時、彼の側にゐた人は『その議論の主意だけで彼がイギリス人であると言ふ證明は充分である。』と言つたと彼は吾人に書き残してゐる。

彼は宗教裁判所に送られて三ヶ年の苦業に課せられて囚人としてゼビーに送り返された。解放された彼は或るイギリス商人の商店に於ける出納係に傭はれた。而して或る婦人がその父と共にメキシコから渡歐してその途中にその父をなくした婦人に出會した。その婦人は何の頼りもなき孤兒であることゝ、二萬五千磅の金の所有者であることを知つた。彼は義侠的に彼女と結婚して、而して『神を信ずるすべての人達に神の恩恵を示す可き』事實を示したのであつた。

この話に於いて吾人は近世に於けるイギリス人の性格のすべてを知ることが出来ると思ふ。冒險的精神、實際的聰明、成功せんとする心、あらゆる

る方法に於いて幸運を求めんとする強固なる意志危険に面しての勇氣、災禍に對する快活、彼の選んだ地位に對する忍耐等の性格が仄見へてゐる。

尙ほ且つ吾人はその時代に於いてすら彼が行きし地に自からの喜びを見出し、その才能と剛直との價値を知り、彼が住みし地の人々と交つて何の怨みを起さず、また、離婚をしながら親切と熟慮とを以つてすべてを處置してゆく彼を知つたのであつた。しかも始終彼はあくまでのイギリス人として性格を失はず、その思想を變ずることもなく又、彼の意見を變ゆることがなかつたが故に他の人々より挑戦さるゝ時、その眞實の意見を吐いてあくまで戰つたのであつた。かくして終に是等の眞の性格によつて生きし彼は彼の一般的端正に於いて非常なる信用を得たのであつた。保護なき娘は彼の擁護の下に身の安全を感じ、而して彼の注意の下に彼女自身とその所有とのすべてを委したのであつた。

現代に於けるイギリス人の力は彼等の實際的器量に伏在してをるものであると認められてゐる。その實際的器量とは、私がイギリスの歴史に表はれた主なる特徴として既に記した如く彼等自身の方法によつて彼等自身の事件を處置せんとする希望によつて生きる各個人の生活態度に對する評價であると思ふ。

歐洲大陸に於ける或る重要な工業専門學校の教授としてつとめてゐた人が、或る特別なる偏見から解放されたコスモポリタンとして興味ある觀察を述べてゐる。その學校の生徒は歐洲各國より集まつてをるのであつて、各の國民性の特性を示してゐた。その教授は、教室の課業を受ける時のイギリス人は他の國の人とさほど目立つた態度も頭腦も示してはゐない。而して笑ひを引き起すほど大きな間違をしばく生ずるぐらゐであると言つてをる。が、授業を終つてすべての生徒が工場に集まつて、實際的問題が與へられた場合は全くその感を別にすると教授は言ふ。『ドイツ人は筆記帳を取出して長い計筆に没頭する。フランス人は

その周圍にぶらついて、而して、巧妙な、光輝ある暗示を得んがために時をすぞす。イギリス人は窓から外を眺めて、而して暫くの間口笛を吹いてゐる。それからぐるりと向きをかへて而して他人達がそれに就いて尙ほ考へてゐる間に、その問題を解き終る。』と。

この物語に含まれたすべての意義を全部そのまゝ眞であるとは思はないが、その大體の特性を捕へた面白い話であると思ふ。

私は大きな問題を捕えて、その表面に流れた一部分を記したに過ぎない。而して最後に記するこの出来る結論は、イギリス人の現在あるが如き状態を世界的位置とはイギリス人の最善を盡したるためであると言ふことであつて、それが取りもなほさず長い歴史によつて顯はされたるイギリス人の特性であると言ひたいのである。

尙ほこの問題を微細に研究せんとするならば、各國に於いて現存する如き自由と言ふ觀念を分析することによつてイギリス人の特性の内容を明かにすることが出来ると思ふ。

この觀念は社會に於ける個人の要求を明かに表示するものである。が、イギリス史にはこの觀念に對する個人解放の事實を深刻に示してゐない。イギリス人は他人の法律上又は徳義上の權利を考慮することなく、彼に最もよく適するところのものとなさんとし、又は、あらんとする不動の權利を有するものとして彼の周圍から離して彼自身を意識することを教えられてはゐなかつた。彼は何處に行つても義務と正義とを組合はしたる自由の觀念を持ち運んだのであつた。而してこれはイギリス人の文化力としての成功の秘鍵であつたと思ふ。私はヘーゲル Hegel の言葉を代りて結論としたいと思ふ。

『イギリスの物質的存在は商業上と工業上に基礎を有してゐる。而してイギリス人は世界に對する文化の傳導者としての重き責任を負擔した。何故ならば彼等の商業的精神はすべての海とすべ

ての陸と結び、未開の民族との連結を組み立て、欠乏を補ひ、産業を刺戟すべく彼等を奮起せめしたのであつて、就中、商業に必要な状態を彼等の間に創造すべく勵ましたのである。即ちそれは不法なる暴威生活の棄權であつて、他國人に對する所有權への尊敬と、禮儀心との喚起であつた。』

是れは一八二〇年に於いて記されたる言葉であるが、その後イギリスは幾多の事件を経過してきてゐる。されど各事件に會する毎に而してその勢力の範圍を擴むると共に益々の確にその特性を發揮してゐるやうに思はれるのである。

(この一篇を草するにあたり散見せる書の二三を附記しておく)

Macaulay; History of England.

Hegel; Philosophy of History.

Green; History of English People.